

指導内容系統表例（社会科、地歴・公民科）

単元「鎌倉時代」

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
|--------------------|---|--|---|
| 学習指導要領に示された内容 | <ul style="list-style-type: none"> 源平の戦い、鎌倉時代の始まり、元との戦い、京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画について調べ、武士による政治が始まったことや室町文化が生まれたことが分かること。 | <ul style="list-style-type: none"> 武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開を鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、応仁の乱後の社会的な変動を通して理解させるとともに、元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割など、その間の東アジア世界とのかかわりに気付かせる。 農業などの諸産業が発達し、畿内を中心とした都市や農村に自治的な仕組みが生まれたことを理解させるとともに、武士や民衆の活力を背景にして生み出された新たな文化の特色について考えさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 武士の土地支配と公武関係、宋・元とのかかわりに着目して、武家政権の形成過程と鎌倉新仏教など文化に見られる新しい気運について理解させる。 |
| 政治 | <ul style="list-style-type: none"> 地方に住む有力者（豪族）の中から武士がおこる。→源氏と平氏が力を伸ばす。 平清盛を中心とした平氏一族は、源氏をおさえ（平治の乱等）、朝廷の重要な地位を独占し政治を行う。→平氏の政治への不満が高まる。 源頼朝は、伊豆の北条氏ら関東の武士を味方に付け、平氏を倒す戦いを始めた。 源氏は、源頼朝の弟の義経の活躍によって（平谷の戦い等）、1185年、壇ノ浦で平氏を滅ぼす。 1185年、源頼朝は全国各地に守護と地頭を置く。 源義経→頼朝と対立し平泉で滅ぶ。 1192年、源頼朝は、征夷大將軍に任命される。 源頼朝が開いた政府を鎌倉幕府という。 鎌倉幕府に従った武士を御家人といい、幕府と御家人は土地を仲立ちとして「ご恩と奉公」の関係で結ばれた。 源氏の將軍が3代でとだえると、執権という職についていた北条氏が幕府の政治を進める。 幕府は、朝廷との戦いにも勝利し力を強める。（頼朝の妻北条政子の演説） 元との戦いに参加した武士→多くの費用を使うが、ほうびをもらえず幕府に不満をもつ。 14世紀の中頃、鎌倉幕府が滅ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> 地方の豪族や中央の武官の中から武士がおこり武士団を組織する。→源氏と平氏が有力 10世紀中頃、関東で平将門が、西国で藤原純友が反乱を起こす。→武士の力で鎮圧 源義家が東国、平氏が西国に勢力を伸ばす。 白河天皇が上皇となって院政を行う。 保元の乱、平治の乱に勝利した平清盛は、太政大臣の位につき実権を握る。 源頼朝の関東での勢力拡大→弟の源義経を派遣し、木曾の源義仲を破る。その後、壇ノ浦で平氏を滅ぼす。（1185年） 1185年、源頼朝は、国ごとに守護、荘園・公領ごとに地頭を置くことを朝廷に認めさせる。→鎌倉幕府を開く。 奥州の平泉を中心に栄えていた藤原氏を源義経とともに滅ぼす。 1192年、源頼朝は朝廷から征夷大將軍に任命される。 將軍に従った武士を御家人といい、御恩と奉公の主従関係を結んだ。 頼朝の死後、北条時政（頼朝の妻政子の父）に実権が移る。→以降、北条氏が執権の位につき実権を握る。 1221年、後鳥羽上皇が承久の乱を起こすが幕府によって鎮圧される。→幕府は京都に六波羅探題を置き、朝廷への監視を強める。 1232年、執権北条泰時が御成敗式目を制定 徳政令を出す。→混乱し、幕府への不満へ。 1333年、鎌倉幕府が滅ぶ。→後醍醐天皇を中心に足利尊氏や楠木正成ら | <ul style="list-style-type: none"> 東国に根をおろした桓武平氏のうち、平将門は一族と争い、国司とも対立し、939年に反乱をおこした。（平将門の乱）同じ頃伊予の国司であった藤原純友も瀬戸内海の内海を率いて反乱を起こした。（藤原純友の乱）【承平・天慶の乱】 清和源氏や桓武平氏は地方武士団を広く組織して武家を形成し、大きな勢力を築いた。 白河天皇は上皇として院庁をひらき、天皇を後見し政治の実権をにぎる院政の道を開いた。 源義家の死後、院と結んで平正盛、子忠盛、孫清盛が勢力を伸ばしていった。 平治の乱後、清盛は後白河上皇を武力で支えて昇進をとり、1167年には太政大臣となった。 源頼朝をはじめ各地の武士団が挙兵し、内乱が広がり、1185年、長門の壇ノ浦で平氏を滅ぼした。 鎌倉を根拠地とした頼朝は、1185年、守護や地頭を任命する権利等を獲得し、鎌倉幕府が確立した。その後、後白河法皇の死後には、征夷大將軍に任ぜられた。（1192年） 頼朝は御家人を地頭に任命し先祖伝来の所領を支配したり、新たな所領を与えた。 御家人は戦時には軍役、平時には京都大番役や鎌倉番役などをつとめて奉公した。 頼朝の妻北条政子の父である北条時政は、執権と呼ばれて幕府の実権を握った。 後鳥羽上皇は、1221年、北条義時追討の兵をあげたが戦いは幕府側の勝利に終わった。（承久の乱） 執権北条泰時は、1232年、御成敗式目51ヶ条を制定し、広く御家人たちに示した。 幕府は窮乏する御家人を救う対策をとり、1297年には永仁の徳政令を發布した。 鎌倉幕府が滅ぶ。（1333年）後醍醐天皇の新政 |
| 押さえておきたい基礎的・基本的な知識 | <ul style="list-style-type: none"> 中国を支配したモンゴル人は、国名を元と定め、朝鮮を従えて2度北九州に攻めてきた。（元寇）→執権北条時宗は武士を九州に集め、戦う。 元軍の集団戦法や「てつほう」という新兵器に苦戦する。 元軍は、武士たちの激しい抵抗や暴風雨にあつて大陸に引きあげる。 | <ul style="list-style-type: none"> 平清盛は、兵庫の港（大輪田泊）を整備し、中国の宋と貿易を行う。 チンギス・ハン→モンゴル帝国を築く。 5代目皇帝フビライ・ハン→国号を元とし、宋を滅ぼし中国全土を支配する。また、朝鮮半島を支配していた高麗も征服する。 執権北条時宗の時に元が襲来する。（元寇→1274年文永の役、1281年弘安の役） 元軍は集団戦法と火器を使い、幕府軍を苦しめるが暴風雨にあつて大損害を受け、退却 マルコ・ポーロ「世界の記述」（「東方見聞録」）→日本を「黄金の国ジパング」と紹介 武士の生活→惣領（一族のかしら）を中心に団結 武芸の訓練に励む。（笠懸、流鏝馬など）領地は、分割相続 民衆の暮らし→牛馬の利用、鉄製の農具の普及、草や木の灰を肥料として使用、米と麦の二毛作が行われ、定期市がひらかれる。 平泉の中尊寺金色堂 新しい仏教の教え 法然→浄土宗、親鸞→浄土真宗（一向宗）、日蓮→日蓮宗（法華宗）、栄西→臨済宗、道元→曹洞宗、一遍 「新古今和歌集」→後鳥羽上皇が中心になって編さん（藤原定家、西行らの歌） 「方丈記」→鴨長明 「蒙古襲来絵詞」 軍記物「平家物語」→琵琶法師の弾き語り 東大寺南大門の金剛力士像→運慶ら | <ul style="list-style-type: none"> 平氏は日宋貿易にも力を入れ、清盛は、摂津の大輪田泊（現、神戸市）を修築して、宋商人の畿内への招来にもつとめて貿易を推進した。 13世紀初め、チンギス＝ハーンが、広大なユーラシア大陸の東西にまたがる大帝国を建設し、孫のフビライ＝ハーンは、国号を元と定め、高麗も服属させ日本に対してふたたび朝貢を強要してきた。 執権北条時宗が、朝貢を拒否し元が日本に襲来した。（元寇→1274年文永の役、1281年弘安の役） 元軍の集団戦やすぐれた兵器に対し、日本軍は苦戦したが、暴風雨などにより、元は敗退した。 武士は河川近くの微高地を選んで館をかまえ、周囲には堀・溝や塀をめぐらした。館の周辺部には直営地を設け、下人や農民を使って耕作させた。 武士は一族の子弟たちに所領を分け与える分割相続を原則としていた。 武士の生活は簡素で、流鏝馬、笠懸、犬追物や巻狩などの訓練を行った。 二毛作、牛馬耕、荏胡麻、絹布、麻布の普及 定期市、行商人、見世棚、座、問、宋銭、為替 鎌倉仏教 法然→浄土宗 専修念仏、親鸞→浄土真宗（一向宗）悪人正機、一遍→時宗 踊念仏、日蓮→日蓮宗（法華宗）題目、栄西→臨済宗（禅宗）坐禅、道元→曹洞宗（禅宗）坐禅 西行「山家集」、鴨長明「方丈記」、慈円「愚管抄」、「新古今和歌集」（後鳥羽上皇の命で編さん）、「吾妻鏡」 重源→東大寺再建「大仏様」、運慶・快慶ら→東大寺南大門金剛力士像 「蒙古襲来絵巻」 |
| 充実させたい言語活動例 | <ul style="list-style-type: none"> 源平の戦いを通して、源氏が勝利し、鎌倉幕府が開かれたことについてまとめ発表する。 元との戦いの様子についてまとめるとともに、なぜ元の攻撃を退けることができたのか発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> 武士が台頭し、武家政権が成立した経緯をまとめ発表する。 元寇が国内の政治などに及ぼした影響について鎌倉幕府の滅亡と関連付けて説明する。 | <ul style="list-style-type: none"> 武家政権が東国の地方政権から全国的な政権に成長していった経緯について説明する。 鎌倉新仏教をそれまでの仏教と比較し、その特色についてまとめるとともに、なぜ教えが多くのの人々の間に広まっていったのか、その理由について発表する。 |
| 育てたい力 | <ul style="list-style-type: none"> 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いの歴史的事象を通して、武士による政治が始まったことを多面的に考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 武士が台頭して武家政権が成立したことや東アジア世界とのかかわり、新たな文化の特色に関する学習を通して歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府が全国的な政権に成長していった武家社会の形成過程や蒙古襲来等を通じた東アジアとの関わり、鎌倉新仏教など文化に見られる新しい気運について多面的・多角的に考察することができる。 |
| 資料を活用し表現する力 | <ul style="list-style-type: none"> 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いの歴史的事象に関する各種の基礎的資料を活用して調べ、武士による政治が始まったことを分かりやすく表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 武士が台頭して武家政権が成立したことや東アジア世界とのかかわり、新たな文化の特色に関する様々な資料を収集し、適切に選択・活用して調べ、歴史の大きな流れを時代の特色を踏まえながら分かりやすく表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 武家政権の形成過程や東アジアとのかかわり、鎌倉文化の展開について、様々な資料を活用して調べ、武家社会の成立と文化に新しい気運が生まれたことについて分かりやすく表現することができる。 |